

駐日米国大使

ジョン・V・ルース 閣下

マグルビー在沖米総領事の暴言に抗議し、即時解任を要求する申し入れ

去る9月4日、アルフレッド・マグルビー在沖米総領事は、着任初の記者会見において、米軍普天間飛行場について「飛行場の周りに住む者はある程度の危険はあると思うが、特に危険であるという認識はしていない」と述べた。2004年8月に沖縄国際大学に墜落・炎上したCH53D大型ヘリ事故の記憶をもつ沖縄県民の感情に照らせば、決して看過できない問題発言である。

普天間飛行場は、政治の舞台はもとより、司法の場でも「世界一危険」と認定されている米軍基地である。「危険」な状態が恒常化している現実こそ県民の共通認識であり、マグルビー氏の現状認識は、明らかに誤っている、と厳しく批判せざるを得ない。

マグルビー総領事は、普天間飛行場が密集した市街地の中に存在していることに対し、「歴史の流れの中でどうして周りに密集されたか不思議」とも言及した。

沖縄戦当時、米軍は本島上陸直後からハグ陸戦法規に反する違法・不当な土地接收を繰り返した。また、その後の軍事占領下においても「銃剣とブルドーザー」で強権的に強奪したのが厳然たる事実だ。マグルビー氏の発言は、米軍による土地接收の経緯、普天間飛行場の基地形成過程にあまりにも不勉強で、歴史認識に著しく欠けている。

一連のマグルビー氏の言動は、かつて沖縄への偏見と悪意に満ちた侮辱発言で、米務省日本部長の職を更迭されたケビン・メア元在沖米総領事と通底するものである。発言の真意がどこにあれ、着任早々、沖縄県民の心情を逆なでし、尊厳を傷つけた事実は極めて重い。

したがって、アルフレッド・マグルビー氏にあっては、沖縄と米国の友好親善の橋渡し役となるべき、在沖米総領事の要職を担うに相応しくない、と断ぜざるを得ない。

私たち沖縄県選出・出身国会議員は、強い憤りと遺憾の念をもって抗議し、マグルビー氏を即時解任するよう求めるものである。

2012年9月7日

衆議院議員 下地 幹郎



衆議院議員 赤嶺 政賢



衆議院議員 照屋 寛徳



参議院議員 糸数 慶子



衆議院議員 玉城デニー



参議院議員 山内 徳信

